

## 福祉企業が水産加工工場をM&A、工場の業績がV字回復 ～M&A後の業績変化をレポートするニュースレターを発行～

一般社団法人社会福祉支援協会の属するB∞Cグループ内の、学びから仕事や住まいまで一貫した障がい者支援を行う株式会社B.Continue(本社:福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目17-25 博多クリエイティブビル5階、代表理事:島野廣紀 しまの・ひろのり、以下「同社」)は、2022年3月23日に、2021年に同社が行ったM&Aに関するニュースレターを発行します。

同社は、2021年6月4日に水産加工工場である株式会社福岡丸福水産(以下「福岡丸福水産」)をM&Aし、グループ傘下に迎えました。M&A後、福岡丸福水産の7月～2月の売上合計は前年比104%(直近3ヶ月合計は前年比123%)になるなど、業績を伸ばしています。福祉企業の傘下に入ることによって工場の障がい者雇用が促進され、作業効率が改善したことなど、M&A後の変化について、B.Continueの島野社長と福岡丸福水産の倉橋会長へのインタビューを中心に紹介します。

ニュースレターは、下記URLからご覧頂けます。

<https://b-continue.co.jp/wp-content/uploads/2022/03/0ebfb7669d0271e5f68b2a272929b082.pdf>

### ■M&A後の丸福水産の業績紹介

M&A成立後7月～2月分 ※2月は現在ペースでの予想着地点

※()内2020年度数値

合計 251,242,006 (242,167,303) 前年比104%

12月～2月合計 106,717,906 (86,670,298) 前年比123%

### ■対談者紹介



島野廣紀(しまの ひろのり)

株式会社B.Continue、一般社団法人社会福祉支援協会、一般社団法人スキルアップセンター、株式会社B.Advance、株式会社アステックス九州、株式会社福岡丸福水産 代表取締役

#### M&Aに対するコメント

「福祉企業と一般企業のM&Aは、企業の人手不足と障がい者の就労課題をどちらも解決する、一つの新しいかたちだと感じています。私たちの事業が、より多くの企業や就労支援の場を改善するきっかけに繋がるよう、今後も業績アップと情報発信に取り組んで参ります。」



倉橋 宗博(くらはし むねひろ)

株式会社福岡丸福水産 会長

#### M&Aに対するコメント

「新規雇用の問題や後継者不在の状況があり、数年前からM&Aを検討していました。異業種とのM&Aに初めこそ不安がありましたが、福祉に絡めることで、福岡丸福水産の雇用問題はおそらく全て解決しました。障がいのある方に働いて頂くことで人材が確保でき、かつ業績も回復しています。『福祉企業とのM&A』の価値や効果をもっと認知されるよう、これからも邁進致します。」

### ■会社概要

- ・団体名:株式会社B.Continue
- ・代表理事:島野廣紀
- ・所在地:福岡市博多区博多駅前2丁目17-25 博多クリエイティブビル5F
- ・電話番号:092-473-6231
- ・設立:2010年11月04日
- ・社員数:5名
- ・事業内容:社会福祉事業/代理請求・ソフトバンク携帯電話販売・複合機販売(営業/保守/消耗品販売)・インターネット回線販売・固定電話/携帯電話販売/その他/工事・ネットワーク環境構築の企画提案業務
- ・代表者URL:<https://b-continue.co.jp/>



【本件に関する問い合わせ先】

株式会社B.Continue 広報事務局(ONE SWORD株式会社)  
担当:白井 TEL:070-5436-8307 email:press@onesword.jp

# NEWSLETTER

## 【M&A経過レポート】

# 福祉企業が水産加工工場をM&A 工場の業績がV字回復

『障がい者雇用によりライン効率改善、売上向上』



福岡を拠点に障がい者支援事業を展開しているB∞Cグループ(ビーエイトシーグループ)内の法人、株式会社B.Continue(以下「B.Continue」)が、2021年6月に、水産加工工場である株式会社福岡丸福水産(以下「福岡丸福水産」)をM&Aし、グループ傘下に迎えました。M&A後、福岡丸福水産の業績はV字回復しています(2021年7月～2022年2月は売上前年比104%。そのうち2021年12月～2022年2月では売上前年比123%)。福祉企業の傘下に入り工場の障がい者雇用が促進されたことで、作業効率などを見直して改善し、業績の回復に繋がっています。本レポートでは、M&Aの前後で、企業の体制や業務効率はどう変わったのか。B.Continueの島野社長と福岡丸福水産の倉橋会長に対談形式でお話を伺うことで、今回のM&Aの成功要因をひも解きます。

### ■2021年度業績報告(福岡丸福水産単体)

M&A成立後7月～2月分 ※2月は現在ベースでの予想着地点

※()内2020年度数値

7月 24,899,542(31,341,957)

8月 28,992,397(27,499,262)

9月 28,608,454(34,021,590)

10月 30,742,750(27,282,030)

11月 31,280,957(35,352,166)

12月 44,582,798(40,921,775)

1月 34,135,108(19,992,871)

2月 28,000,000(25,755,652)

合計 251,242,006 (242,167,303) 前年比104%

12月～3月合計 106,717,906(86,670,298) 前年比123%



### ■ M&A概要

<成立時期:2021年6月4日>

M&Aが成立し、株式会社B.Continueの代表取締役である島野廣紀が、株式会社福岡丸福水産の代表取締役に就任。福岡丸福水産の前社長である倉橋氏は、会長に就任。

<M&Aの目的>

株式会社B.Continue:

障がい者雇用の促進に繋がるような事業拡大

株式会社福岡丸福水産:

人材確保、事業承継

### ■ 島野社長、倉橋会長の略歴紹介



島野 廣紀(しまの ひろのり)

株式会社B.Continue、一般社団法人社会福祉支援協会、一般社団法人スキルアップセンター、株式会社B.Advance、株式会社アステックス九州、株式会社福岡丸福水産 代表取締役

通信会社勤務を経て、2010年にB.Continueを設立し、未経験から福祉業界に入る。企業において障がいのある方の能力を生かしていきれていない現状を変えるため、「障がい者を戦力に」を合言葉に、学びから仕事や住まいまで一貫した障がい者支援を行う。



倉橋 宗博(くらはし むねひろ)

株式会社福岡丸福水産 会長

1993年8月に福岡丸福水産に入社。以前は、オフコンからパソコンへのシステム移管の過渡期にあたり、生産や販売の業務分析をしながら独自のシステムの構築などで経験を積んだ後、2002年に代表取締役に就任。おいしい魚を安全に食卓に届けるために、水産加工技術の向上や販路の確立に尽力。

今回のM&Aを経て会長に就任し、水産業界に関して未経験のB.Continueにおいて、指南役を担う。

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社B.Continue 広報事務局(ONE SWORD株式会社)

担当: 白井 TEL:070-5436-8307 email:press@onesword.jp

# NEWSLETTER

## CONVERSATION

一昨年6月に、2社のM&Aが成立しました。なぜM&Aに踏み切られたのか、それぞれの目的を伺えますか。

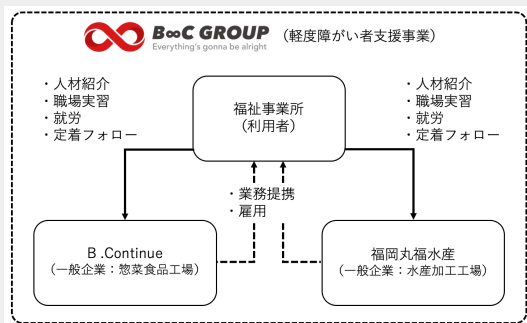
倉橋会長(以下「倉橋」): まず、水産業界の低迷や会社の立地、労働人口の減少などによって、人材の確保が難しくなっていました。また、後継者がいなかったため、60歳を過ぎてから、事業承継のためにM&Aを見据えるようになりました。

島野社長(以下「島野」): 福岡丸福水産以前に、冷凍食品惣菜工場をM&Aしているんです。そこで、障がい者の就労支援と工場経営が非常に相乗効果を生む組み合わせだと感じていました。さらに障がい者支援事業を活性化するために、工場を持つ会社とのM&Aを希望しました。

一障がい者の就労支援事業を行う福祉企業と水産加工企業という、一見異色の組み合わせですが、M&Aに迷いはなかったですか。

倉橋: 正直に言って、最初は不安がありました。他のM&Aの候補は、やはり水産や食品系の会社だったんです。ですが、立地条件や事業方針、社長のお人柄によって、B.Continueとの成立が決まりました。今では、むしろ同業者としかなくてよかったと思っています。

というのも、福祉に絡めることで、福岡丸福水産の人材確保問題は解決しました。就労支援事業所で雇用している軽度障がいのある方(以下「利用者」)が工場に15名ほど来て働いてくださっていることで、労働力が確保できて作業効率が上がリ、工場職員の残業が減っています。事務所職員にはグループ会社と連携した新しい業務が生まれたことで、今後への希望が見えてきて、離職を防ぐことができそうです。販売のノウハウをお持ちだったこともありですが、やはり「福祉事業を行う企業」というのが重要だったと思います。



島野: 私は、新しい業界に挑戦することで新しい価値が生まれると思っているので、迷いはありませんでした。特にBOCグループは、障がい者支援事業として、飲食店やグループホームなども運営しています。製造工場をM&Aすることで、生産、卸、販売まで一貫したルートが出来るので、マイナス要素がない。さらに福岡丸福水産は歴史のある会社と工場であり、そこには知識と経験の豊富な社員さんがいます。もちろん会長からも、まだまだアドバイスが頂ける。心配するよりも、むしろ「挑戦する環境が整った」と感じていました。

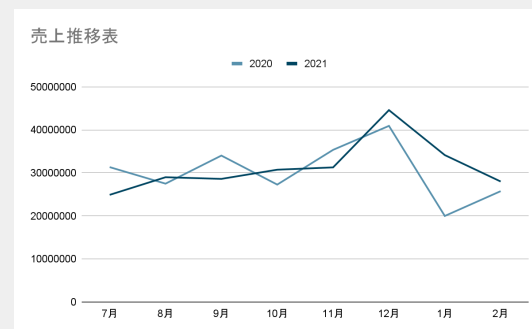
一2社は親和性が高かったということですね。

島野: そうですね。ですが、「B.Continueと福岡丸福水産だから」という特殊な事例というわけではありません。私たちの今回のM&Aは、一般企業の雇用問題や障がい者の就労支援における、一つの解決策なのではと感じています。M&A前の福岡丸福水産のように、人材が集めにくいなど雇用に関心企業は少なくありません。そして、障がい者の就労支援においては、働く意欲はあるけれどフォロー体制やマッチングがうまくいかず、能力が生かされることが多いという現状があります。障がい者支援をする企業と一般企業がグループになる。もしくは、提携することによって、一般企業と福祉事業所を繋ぐパイプが生まれます。そうすることで、一般企

業は利用者という新しい人材を得ることが出来ます。更に重要なこととして、一般的な就労支援における定着フォローは、福祉事業所による「外部から、半年間、月に一回程度の電話確認等」にとどまりますが、これではなかなか利用者にも就労先の企業にも、細やかなケアが出来ないのが実情です。しかし、今回のようなM&Aや提携によって、福祉事業所の持つ「福祉のプロ」が一般企業のグループ内に入ること、非常に手厚く細やかなフォローをすることが出来るので、利用者も安心して仕事に取り組み企業に定着していける。実際に福岡丸福水産では、本当にみなさん生き生きと、戦力として活躍しています。

倉橋: おかげさまで、工場内に活気が戻っていますし、何よりコロナで落ち込んでいた売上が回復しています。工場長からは、「利用者がいるからこの生産目標が達成出来ている。もっと多くの方に来てもらいたいし、幅広い業務に携わってもらって、より高い目標を目指したい。」という言葉ももらっています。

一売上もアップしているんですね。具体的な数値を伺えますか？



倉橋: このグラフは、福岡丸福水産の2020年度と2021年度の売上推移表です。(※2022年2月は現在のペースでの予想着地点) M&A直後からの8ヶ月は前年比104%、12月~2月の直近3ヶ月では前年比123%です。M&A前の主要卸先であるホテルや居酒屋は、コロナ禍によって未だにマイナスが続いていますから、利用者のおかげで業務効率が上がったこと、新しい業界の販路が加わったことがどれだけ大きな財産になっているか、お分かり頂けると思います。島野: 福祉事業所との連携や利用者の研修期間も考えると、実際の効果が出るまでに半年ほどかかります。12月から安定して昨対売上が伸びていますから、これからまだまだ楽しみな段階です。

一発展途上にあるわけですね。今後の展望を教えてください。

島野: まずは、事業基盤を揺るぎないものにするために、継続した売上アップを図ります。そのうえで、現在直接の一般雇用を目指して働いている利用者は15名前後で、そのうち社員としての雇用は2名(社員全体22名/障がい者雇用率9%)ですが、50%以上の雇用率を目指したいですね。そのために、利用者工場スタッフさんがより強い信頼関係を築けるよう、邁進していきます。

障がいのある方と二人三脚で、売上アップを実現している福岡丸福水産。きちんと体制を整えて障がいのある方々の能力を正しく生かせば、「売上アップ」と「就労支援」が同時に成り立つことを力強く証明しています。今後の目標も、現状に満足しない「攻めの福祉」掲げるBOCグループらしいものでした。これからのBOCグループとグループ内に加わった福岡丸福水産に、ぜひご注目ください。

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社B.Continue 広報事務局 (ONE SWORD株式会社)  
担当: 白井 TEL: 070-5436-8307 email: press@onesword.jp